



部活動に打ち込む未来のオリンピアたち（比叡山高等学校バスケットボール部）



発行所
比叡山時報社
□jihoh@deluxe.ocn.ne.jp
大津市坂本町4220
郵便番号 520-0116
電話 077-578-0001
振替 00970-2-9732
宗教法人延暦寺事務所
定価 1部110円 年1200円

延暦寺広報
比叡山講福聚教会
会報
年度会費（3000円）中に会報（比叡山時報）購読料を含む。

令和2年比叡山から
惜しまず
不惜

ご購読は
こちらから

オリンピックの原点を見つめよう

熱い視線の注がれるオリンピックイヤーが幕を開けた。影響を受けない分野などないと言つても過言ではないだろう。しかし、忘れてはならないのは「平和の祭典」であるというその原点である。

アジア初開催であった東京大会（一九六四年）で青空に描かれた五輪のマークは、五大陸の結合・連帯をあらわす。デザインしたのは、近代オリンピックの父と称されるクーベルタンその人である。彼は、「世界中の若者が参加する国際競技大会を開けば、スポーツによる友好が生まれ、平和につながる」と考え、近代オリンピックの創設に尽力したのである。南半球初開催であったシドニー大会（二〇〇〇年）は、アボリジニら先住民に貢献する開催を掲げた。近代オリンピックが創設された一九世紀末は、帝国主義政策真っただ中で、先住民の人々に視点をおいた考え方などにはおよそ及ばなかつたであろう。また「パラリンピック」という言葉が正式名称となり、IOCが直接関わる大会となつたのは、ソウル大会（一九八八年）からである。平和に向けた世界の進歩と言えるだろう。

一方で、「平和の祭典」との趣旨とは逆行した、脅威と悲しみをもたらす出来事もあった。メキシコ大会（一九六八年）では、アフリカ系アメリカ人選手が人種差別に抗議するパフォーマンスを行い、続くミュンヘン大会では、イスラエルの選手がパレスチナ・ゲリラに暗殺される事件が発生した。モスクワ大会（一九八〇年）を西側諸国がボイコットし、東側諸国は、次回のロサンゼルス大会をボイコットした。事件の背景には国内の諸問題や国際紛争の存在があるのだが、この大会の為に鍛錬を重ねた選手の心情は察するに余りある。

七月二十四日のオリンピック開会式まで五ヵ月余り。その後にはパラリンピックも開催される。今一度原点を見つめ、世界中の人々の胸に平和色のメダルが輝く日が来ることを祈りながら声援を送ろうと思う。

